

ファシリテーションの基礎を学ぶ解説動画の効果

田畑 忍

Email: tabata@edu.tamagawa.ac.jp

玉川大学通信教育部

◎Key Words ファシリテーション, グループ学習, 反転授業, 解説動画

1. はじめに

学習者の積極的な授業への参加を促すため、授業展開の中にグループ学習を取り入れることは多い。しかしながら、課題を与えてディスカッションをさせるだけでは十分な成果を期待できない。議論を活性化させるためにはファシリテーションが重要である。一般的に、ファシリテーションを行うファシリテーターには、「場をデザインするスキル」「対人関係のスキル」「構造化のスキル」「合意形成のスキル」が求められる。ファシリテーションのスキルを身につけるためには、実際にファシリテーターとなり、ワークを繰り返すことが重要である。したがって、ファシリテーターの育成には時間がかかるという課題がある。筆者はこれまでに、授業中のグループ学習にファシリテーターを入れる試みを行ってきた⁽¹⁾。本研究では、大学の授業における反転授業の予習ビデオとして作成した、ファシリテーターに求められる4つのスキルの解説動画の効果について報告する。

2. 作成した解説動画

解説動画は、PowerPoint で作成した解説スライドと実際のワークの様子を撮ったビデオなどを示しながら作成した。解説動画では、パソコン画面で示している内容について口頭で補足説明しているものをビデオキャプチャソフトによって録画し、必要に応じて編集した。なお、以下に示す作成した解説動画のスライドの内容については、ファシリテーションなどに関する著書(堀⁽²⁾、森⁽³⁾、中野他⁽⁴⁾、加藤他⁽⁵⁾など)を参考に作成した。

2.1 「場をデザインするスキル」に関する解説動画

「場をデザインするスキル」には、主に5つの要素があると言われる。「目的」「目標」「規範」「プロセス」「メンバー」である。「目的」では一般的に、方向性を明確にすることが求められる。「目標」では到達点を定めることが求められ、「規範」では主に、グラウンドルールを決めることが求められる。「プロセス」では目標を達成するための道筋をたてることが求められ、「メンバー」では役割分担を決めることなどが求められる。作成した解説動画では、「目標を明確化する方法」や「グラウンドルールの決め方」、「場の環境を作る方法」、「場の雰囲気を作る方法」など、大学の授業におけるグループ学習で求められるものを中心に説明した。解説動画時間は約11分である。

2.2 「対人関係のスキル」に関する解説動画

「対人関係のスキル」では、「傾聴」と「復唱」、「質問」などに関する理解が求められる。これらを意識することにより、ファシリテーターはグループの中に話しやすい雰囲気を作ることができる。また、メンバーの意見を引き出し、深めることができる。作成した解説動画では、傾聴や復唱、質問などを具体的にどのように行えばよいかをわかりやすく示すために、オープン・クエスチョンやクローズド・クエスチョンなどの説明に加え、実際に傾聴や復唱、質問のワークをしている様子を撮ったビデオも示した。解説動画時間は、「傾聴と復唱」「質問」を合わせて約10分である。

2.3 「構造化のスキル」に関する解説動画

「構造化のスキル」では、メンバーの意見から「要点を見つけること」「関係を見つけること」などが求められる。見つけた要点や関係性を描く方法として、ファシリテーション・グラフィック(以下、FG)がある。そこで、作成した「構造化のスキル」に関する解説動画では、その基礎として、FGについて説明した。FGには4つのポイントがある。「発言を要約する」「議論のポイントを強調する」「ポイント同士の関係を示す」「図解ツールを使って整理する」である。解説動画では、なぜ描く必要があるのかなどについても説明している。解説動画時間は約7分である。

2.4 「合意形成のスキル」に関する解説動画

ファシリテーターに求められる4つのスキルのうち、「合意形成のスキル」がもっとも難しい。本研究で作成した「合意形成のスキル」に関する解説動画では、メンバーの納得度を高めることを目的とし、メンバーが少しずつ妥協できる点をFGを見ながら探す方法などについて説明した。また、その方法を手助けする一方方法として、ペイオフマトリクスなどについても説明した。解説動画時間は約7分である。

3. 授業実践

3.1 対象

対象1: 筆者が担当する、T大学通学課程2-3年生を対象とした教育方法学の授業を受講している学生13名。作成した解説動画を反転授業の予習ビデオとして視聴した。

対象2: 筆者が担当する、T大学通信教育部のスクーリングの授業(教育の方法と技術)を受講した学生54名。作成した解説動画については予習ビデオとして見てくるのではなく、授業中に一斉に視聴した。

3.2 実践の流れ

対象1の学生には、1回目の授業の一部を利用して、ファシリテーション全般に関する説明を直接行った。学生は2回目の授業までに、「対人関係のスキル」と「構造化のスキル」に関する解説動画を予習として視聴する。その際、解説動画で利用しているスライドを用いた学習プリントを用意しているので、それを各自で印刷し、必要事項を記入しながら視聴する。2回目の授業では、「対人関係のスキル」と「構造化のスキル」に関するワークをペアもしくはグループで行う。すべての学生がファシリテーターの役割を経験できるようにワークを実施した。次に、学生は3回目の授業までに「場をデザインするスキル」と「構造化のスキル」に関する解説動画を視聴する。すべての学生がファシリテーター役を経験できるように、3回目以降の授業では、これらのスキルに関するワークを何回かにわけて実施した。1班の4名でグループ学習を行った。

対象2の学生には、GW中に実施されたスクーリングの1コマ(1回)目の授業の一部を利用して、ファシリテーション全般に関する説明を直接行った。1コマ目の中で「対人関係のスキル」と「構造化のスキル」に関する解説動画を一齐に確認し、引き続き対象1の学生と同様のワークを実施した。2コマ目に「場をデザインするスキル」と「構造化のスキル」に関する解説動画を一齐に視聴し、同様のワークを3コマ目以降に実施した。学習プリントも同様のものを利用した。

4. アンケート結果

①「場をデザインするスキル」、②「対人関係のスキルのうち、傾聴と復唱」、③「対人関係のスキルのうち、質問」、④「構造化のスキル」、⑤「合意形成のスキル」の解説動画を確認し、授業中に全員がワークを実施した後、①～⑤に関するアンケート調査を実施した。

①のアンケート項目を例に説明する。以下のアンケート項目について、A、B、Dでは、「はい5」～「いいえ1」の5段階で回答する。Cでは、「長い5」～「短い1」の5段階で回答する。②～⑤のアンケート項目についても同様の形式である。

- A) 解説動画を見て、「場をデザインするスキル」がどのようなものか理解できましたか。
- B) 「場をデザインするスキル」の解説動画はわかりやすかったですか。
- C) 「場をデザインするスキル」の解説動画の長さはどうでしたか。
- D) 実践してみて、「場をデザインするスキル」はうまくできましたか。
- E) 「場をデザインするスキル」の解説動画について、改善点などがあれば自由に書いてください。

①～⑤における、A～Dのアンケート結果を表1に示す。対象1と対象2で有意差は確認できなかった。理解(A)に関しては、各スキルで多くの学生が肯定的に回答した。動画のわかりやすさ(B)に関しても、平均が4を超えており、各スキルで肯定的な回答が得られた。解説動画の長さ(C)については、3が「ちょうど良い」にあたる。すべての平均で3を超えており、少し長いと感じた学生が多かったようである。ワークで

の自己評価(D)については、3点台と高くはなかった。本アンケートは、各スキルの実践を各自が1回ずつ行った後に実施した。十分な練習ができなかったことが、この結果につながった可能性がある。

対象1の自由記述では、「復唱や質問のタイミングがわからない」「(解説動画の)文字が少し小さい」「図は大きく載せてほしい」「具体例をもっと載せてほしい」などの意見が見られた。対象2の自由記述では、「音が小さく聞きづらかった」「解説のスピードが速かった」「いつ復唱すればよいかかわからなかった」「解説のテンポも長さも良かった」「具体例が示されているのでわかりやすかった」「画面が薄くて見えにくいところがあった」などの意見が見られた。

表1 アンケート調査の結果

アンケート項目	平均 (SD)	
	対象1	対象2
①のA	4.17 (0.84)	4.05 (0.72)
①のB	4.25 (0.75)	4.02 (0.81)
①のC	3.42 (0.67)	3.38 (0.68)
①のD	3.17 (1.38)	3.40 (0.93)
②のA	4.55 (0.52)	4.62 (0.49)
②のB	4.50 (0.67)	4.27 (0.78)
②のC	3.58 (0.79)	3.49 (0.77)
②のD	3.75 (0.75)	3.80 (0.94)
③のA	4.42 (0.67)	4.29 (0.76)
③のB	4.42 (0.67)	4.23 (0.76)
③のC	3.25 (0.75)	3.44 (0.77)
③のD	3.58 (1.08)	3.75 (1.08)
④のA	4.08 (0.90)	4.44 (0.74)
④のB	4.08 (0.79)	4.26 (0.76)
④のC	3.42 (0.67)	3.35 (0.65)
④のD	3.50 (0.91)	3.46 (1.18)
⑤のA	4.33 (0.65)	4.09 (0.85)
⑤のB	4.25 (0.75)	4.04 (0.74)
⑤のC	3.50 (0.80)	3.32 (0.64)
⑤のD	3.33 (1.07)	3.46 (0.99)

5. おわりに

ファシリテーターに求められる4つのスキルに関する解説動画を作成した。アンケートでは、作成した解説動画の内容については肯定的な回答を得られたが、ワークでの自己評価は高くはなかった。今後は、ワークで作成された成果物について、キーワード数などを従来の実践と比較してその効果を確認することとする。

参考文献

- (1) 田畑忍：“グループ学習における議論を促すための試み”，玉川大学教員教育リサーチセンター年報第4号，pp.111-119 (2014)
- (2) 堀公俊：“ファシリテーション入門”，日本経済新聞出版社 (2004)
- (3) 森時彦：“ファシリテーター養成講座”，ダイヤモンド社 (2007)
- (4) 中野民夫，森雅浩，他：“ファシリテーション 実践から学ぶスキルとこころ”，岩波出版 (2009)
- (5) 加藤彰，堀公俊：“ファシリテーション・グラフィック 議論を「見える化」する技法”，日本経済新聞出版社 (2006)